

時評

社を挙げての渾身の「嘘」が、今年もさまざまに話題を呼んだ。年に一度、嘘が許される4月1日のエイプリルフールだ。個人的に秀逸だと思ったのが「松屋」で、松屋銀座の屋上の看板が、生井チェーン店の松屋に乗っ取られた写真がSNSに投稿された。SNSをはじめ、ニュースなどでも好意的に取り上げられるなど話題を呼んでおり、企業コラボの成功事例とも言えるものだと感じた。宣伝効果は絶大なものだったろう。

一緒にから始めよう

「一緒にから始めよう」を不すかのように、当紙でも一つの記事の見出しに複数の社名が並んだり、買収の話が増えてきた。2月の新設住宅着工工数が10カ月ぶりに増加に転じたとはいえ、市場縮小という現実を避けられず、互いの強みを持ち寄って、相乗効果を狙う協業、共創M&Aなどは、新

津山信用金庫の旧支店木質化 創業・移住支援拠点を運用開始

美作材利用促進協定で2例目

岡山県津山市での創業・起業、移住を支援するための新たな拠点として津山信用金庫(津山市、松岡裕司理事長)の旧支店を改装し内装木質化を図った「Tiusタ(Tsuyama Startup)」が1日、運用を開始した。同金庫・院庄林業(同、武本哲郎社長)・同市の3者で締結した「美作材のき等利用促進に関する協定」に基づいて建てられた施設としては、昨年完成した木造の三宮支店新築に続く2例目。3月31日に松岡理事長や谷口圭三津山市長などが出席しオープニングセレモニーがあった。



式典では代表者らがテープカットした

Mそばに設けた壁はデザインで変化をつけるため長さ45材を45度立方位。炭素貯蔵量は7t/CO2。3月10日に同市・津山商工会議所・作州津山商工会・同金庫が創業・移住を支援することで将来の地域の事業所や人口増加、地域活性化を進めるための連携協力を協定を締結し、Tiusタを開設した。

の角度で横につなげた。室内の壁には、新事業に向け一歩一歩登る意味を含め匠乾太郎の余剰材を活用して山の型にデザイン。30x60mmのルーバーや幅接ぎ材のテーブル、チラシ置き場、棚などに使用した原木はすべて県産森林認証材で計9.77立方メートル。炭素貯蔵量は7t/CO2。3月10日に同市・津山商工会議所・作州津山商工会・同金庫が創業・移住を支援することで将来の地域の事業所や人口増加、地域活性化を進めるための連携協力を協定を締結し、Tiusタを開設した。

移住や創業の課題、事業者協定を代表し武本社長は「津山市には高層や低層の建物が多くあり、技術的にすべての木造でできる。Tiusタの開業を目的の当たり前にして、品質が担保された技術・納期が確実な供給体制の構築の決意を新たにしたい」と述べた。

災害対応など多角的に活動 24年度活動報告

プレハブ建築協会 宅の仕様検討など幅広い活動を進めた。4年度の活動を報告した。「住生活向上推進プラン2025」に基づき、各種住宅関連活動のほか、人材育成、大規模災害対応WGにおける「災害対応ミニ



林業現場に導入されたスパイダー

の運営などを軸に展開。住宅営業のエキスパート育成のための同制度は、2025年1月時点で3万5915人の登録者数となる。取組担保保険推進委員会は、取組担保責任の取組を進めてきた。これらでの活動を踏まえ、既存住宅分野での会員の需要に対応するため、リフォーム保険などの取扱件数拡大に一層取り組む。PC建築部会は、PC工法の品質確保を大テーマに各種委員会、WGで活動。PC工法の優位性訴求などにも力を入れた。規格建築部会では、応急仮設住宅建設の対応訓練、応急仮設住宅建設・管理マニュアルの改定などに取り組んだ。ユニットハウス分野では、応急仮設住宅建設の紹介も実施。プレハブ建築協会全体の情報を紹介した。

一般社団法人スパイダー協会発足 オペレーター資格認定へ

サナースほか

川・護岸、災害復旧など、さまざまな現場や用途に活用できる多関節型作業機械スパイダー(スリス・メンツィムック製)の国内普及を通じ、国土の保全と産業活動基盤の充実を目指すことにしている。正会員は、成島建設(徳島市、中江哲也社長)、カタギリテック(岐阜県郡上市、片桐昌樹社長)、喜多機械産業(徳島市、喜多真一社長)などの建設会社と、同機を輸入販売するサナース(横浜市、阿部智社長)で構成。主な活動として、スパイダーの情報発信や広範な活用のための調査・研究、熟練操縦者の養成・訓練などを行う予定としている。同協会による「スパイダーは欧州各地で9000台が稼働しているもの、日本では、建設や林業現場での導入は20台程度にとどまっている。導入が進まない背景には、欧州で必須となっているオペレーターに対するライセンスを付与する機関がないことが挙げられる。このため、建設機械の免許取得教育所として設立された喜多機械産業のグループ会社キタトレーニングセンターにおいて、オペレーター資格認定を行う予定だ。

大船渡市に寄付

イレーク(東京都、ク本名均社長)は、広範な林野火災となった岩手県大船渡市に義援金を寄付した。企業活用した寄付で1500万円(実質負担300万円)を寄付した。同社グループの大船渡バイオマス発電所(岩手県大船渡市)は、同市の避難指示を受けて一時従業員が避難して稼働を止めたが、翌日から通常稼働となった。

組織と人事 4月1日付 〇組織改革 〇甲府支店に「伊那営業所」を新設 〇松本支店に「長野営業所」を新設 〇異動 〇くらしサポート業務部・ポトルウォーター営業部担当 〇専務兼ガス事業・ポトルウォーター事業担当、くらしサポート本部部長 〇山本浩孝 〇専務付・特命事項担当(くらしサポート業務部・くらしサポート販売担当、くらしサポート販売部長委嘱) 〇取締役前浦仁志 〇くらしサポート販売部担当 〇取締役静岡岡支店長委嘱 〇柴本明良 〇くらしサポート販売部長(くらしサポート販売部販売促進課長) 〇原智昭 〇三協立山三協アルミ 〇4月1日付 〇福岡西工場副工場長(三協立山改革推進統括室改革推進部業務改革グループ長) 〇矢嶋健栄